

The Delphion Integrated View

Get Now: ☒ PDF | [More choices...](#)Tools: Add to Work File: [Create new Work](#)View: [INPADOC](#) | Jump to: [Top](#) Go to: [Derwent](#)☒ EmailTitle: **JP2001028620A2: PORTABLE TELEPHONE OF WRIST WATCH TYPE**Derwent Title: Wrist watch type portable telephone has portable telephone and PHS provided in arm of bracelet or wrist watch [\[Derwent Record\]](#)Country: **JP Japan**Kind: **A2 Document Laid open to Public inspection**Inventor: **KURACHI YOJI;**Assignee: **KURACHI YOJI**
[News, Profiles, Stocks and More about this company](#)Published / Filed: **2001-01-30 / 1999-07-14**Application Number: **JP1999000231822**IPC Code: **H04M 1/02; H04M 1/21;**Priority Number: **1999-07-14 JP1999000231822**Abstract: **PROBLEM TO BE SOLVED:** To improve convenience in use by carrying a portable telephone set on a wrist and using the portable telephone set or PHS as-fitted on the wrist like a wrist watch in the case of carrying and using the portable telephone set.

SOLUTION: A portable telephone set of a wrist watch type is fitted to the inside of a wrist with a band and at the time of using, a power source switch H is pressed to turn on a power source and a cover is opened toward a palm to input a telephone number with the control keys I of a main body. The number is displayed on a liquid crystal screen C. When an opposite party answers, a speaker F fixed on the rear side of a cover D is fitted to a user's ear during speaking, thereby a microphone G fixed on the lower side of the main body picks up voice and the opposite party can hear it. The voice of the opposed party can be heard from the speaker F. Since the portable telephone set can be used as-fitted to the user's wrist, it can be used quickly at anytime and eliminate inconvenience of dropping it from the hand or looking for it in a bag. In addition, it is also possible to use the Internet, etc.

COPYRIGHT: (C)2001,JPO

Family: **None**Other Abstract Info: [DERABS G2001-199284](#) [DERABS G2001-199284](#)



[Nominate this for the Gallery...](#)



Copyright © 1997-2005 The Tho

[Subscriptions](#) | [Web Seminars](#) | [Privacy](#) | [Terms & Conditions](#) | [Site Map](#) | [Contact U](#)

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2001-28620
(P2001-28620A)

(43)公開日 平成13年1月30日(2001.1.30)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	データベース(参考)
H 0 4 M 1/02		H 0 4 M 1/02	C 5 K 0 2 3
1/21		1/21	C

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平11-231822

(22)出願日 平成11年7月14日(1999.7.14)

(71)出願人 599115468

倉地 庸嗣

東京都練馬区桜台5丁目10番14号若菜荘6

(72)発明者 倉地 庸嗣

東京都練馬区桜台5丁目10番14号若菜荘6

Fターム(参考) 5K023 AA07 BB02 BB03 BB11 BB23

CC00 KK03 MM11

(54)【発明の名称】 腕時計型携帯電話

(57)【要約】

最近急速に携帯電話やPHSが普及しております。電話機本体もだんだんと小型化され、軽量化されております。しかし実際に使用してみると、まだ不便な部分があります。明細書にも記載しましたが、携帯電話機を手を持って歩いたり、カバンに入れて歩くのは、実際かなり使用することに面倒な部分があります。手から落としたり、カバンから探し出す間に着信音が切れてしまう等がそれです。そこで携帯電話機を腕時計の様に腕に付けたまま携帯し、使用することを思いました。これによって、何時でもすぐに使用可能となり、大変便利になります。例えば、ノートパソコンを持ち歩いて仕事をしている様な方々も、その場でパソコンと腕の携帯電話をつなぐことによって、インターネット等につなぐことができ、しかも手のひらは両手ともあいているため、両手でキーボードを打つことができます。よってこのアイデアは大変画期的であり、また実用であると思ひ、願ひ出る次第です。このアイデアを企業の力を借りて、商品化したいと希望しております。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 腕時計型携帯電話及びPHS。携帯電話及びPHSを腕時計の様に腕に取り付ける。取り付けたまま使用する。

【発明の詳細な説明】

(1) 発明の属する技術分野

携帯電話機の形状と使用方法。

(2) 従来の技術

携帯電話機を手のひらに持って使用する。

(3) 発明が解決しようとする課題

従来は携帯電話機を持ち歩き使用する場合、鞆やポケットに入れて移動したり、手に持って歩く方法が採られており、不便である。その不便さ。

(4) 課題を解決するための手段

携帯電話機を腕に付けたまま携行し、使用する。

(5) 発明の実施の形態

携帯電話機を腕時計やブレスレットの様な形にする。

(6) 実施例

腕時計型携帯電話機を手首の内側にバンドで取り付ける。使用時は、電源スイッチを押して電源を入れ、カバーを手のひらの方へ開き、本体のコントロールボタンで電話番号を入力する。番号は液晶画面に表示される。相手がでたら、カバーの裏についているスピーカーを耳に当てて話すと、本体の下方についているマイクが音声を

拾って相手に聞こえる。相手の声はスピーカーから聞くことができる。

(7) 発明の効果

従来は携帯電話機の着信音が鞆の中で鳴っても、周囲の音で気付かなかったり、鞆から出そうとして、もたついている間に切れてしまう等の不便さがある。また、手に持ったまま歩いたり、ポケットから出し入れして使用すると、ふとした拍子に落として破損する危険性がある。これを腕に付けたまま使用することによって、いつでもすぐに使用することができ、手から落としたり、鞆の中から探し出す様な不便さを解消することができる。また、パソコンにその場で接続してインターネット等を利用することができる。その場合両手でキーボードを打つことができる。

【図面の簡単な説明】

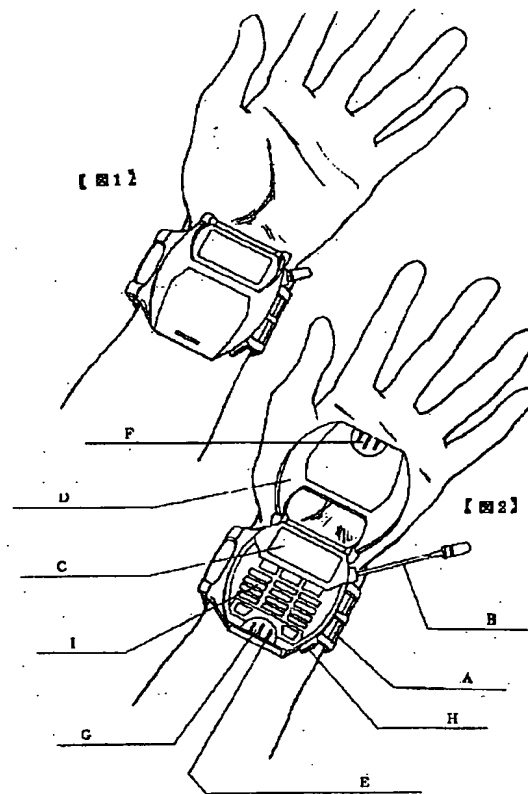
【図1】立体図 本件発明物件を腕に取り付けたイメージ図。カバーを開く前の状態。

【図2】立体図 カバーを開いた後の状態、通話時。

【符号の説明】

A＝バンド、B＝アンテナ（伸ばした状態）、C＝液晶画面、D＝カバー（開閉する）、E＝充電コネクタ差し込み口、パソコンへの接続ケーブル差し込み口、F＝スピーカー、G＝マイク、H＝電源スイッチ、I＝コントロールボタン類

【図1】



【手続補正書】

【提出日】平成11年9月24日(1999.9.24)

【手続補正1】

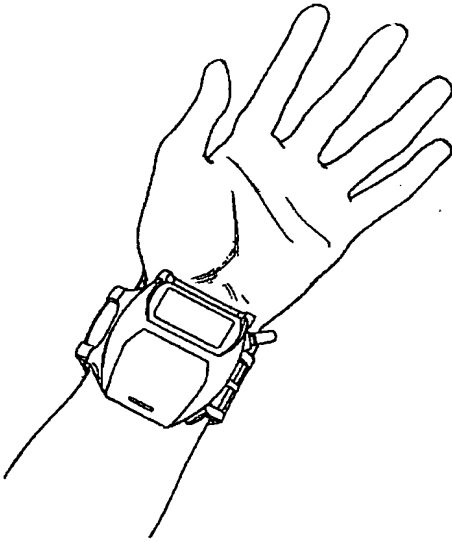
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】全図

【補正方法】変更

【補正内容】

【図1】



【図2】

